

福 井 県 医 師 会

だより

第585号 平成22年(2010)3月



近代的な福井駅

福井市 宮越 洋二

表紙写真説明：近代的な福井駅

福井市 宮越 洋二

この絵は、春から夏にかけての福井駅と AOSSA の日本画です。一般に日本画は、花鳥山水を描くことが多く、今回のようにコンクリートの建物を日本画でかく事は、中々勇気のいることでした。

絵をかかれる会員の先生方はかなりおられるようですが、洋画の油絵が多いように思われます。

日本画は、絵具に岩絵具を使い、その絵具に膠にかわと水を混ぜるのです。その岩絵具を何回も重ねぬりをして独特の風合を出します。

この絵の完成には、約2ヵ月要しましたが、俗人の凡作とってみていただければ幸いです。

醫 縫 録

日本医師会への初出張

学術担当理事 坂井 健志



平成21年4月より福井県医師会学術担当理事を務めています。昨年3月に県医師会理事へ推薦の話がありまして、「それなりの年になって順番が回ってきたのだなあ」と引き受けさせていただきました。引き受ける際に一番危惧したのは出張や会議への出席で、診療にどれほど影響が出るかでした。そこで松田会長にお会いした機会に、できるだけ県外出張のないところを担当させてくださいと我儘を言わせていただきました(申し訳ありません)。4月になると学術担当と発表があり、事務局より職務の説明を聞くと県外出張も2〜3回で済みそうだし、平日の会議や催物はなさそうなのでちょっと安堵しました。

そのような状況の中で昨年は日医会館へ出かける機会が2度ありました。1度目は8月20日(木)21日(金)の2日間の日程で日医会館大講堂にて開催された社会保険指導者講習会への出席でした。2日間は診療を休めないで初日のみ出席いたしました。日医会館へ出向くのは初めてで、当日は午前5時に自宅を出発。駒込駅には10時10分ごろ無事に到着。駒込駅の「東口」を出ると確か…、35年前にはこの近くの学校に通っていたので土地勘があるはずと思ったのが大間違い、そこから右往左往し徒歩10分のところを20分もかかって会館に到着しました。大講堂では会長の挨拶が終わりもう講演が始まっていました。がん診療における最新の情報が次々に披露され、非常にアカデミックな雰囲気ですが学術団体だと小さな感動を覚えました。午後4時ごろに講演が終わるとそのまま東京駅に直行し帰宅したのは午後11時でした。翌日、朝からいつもの様に患者さんの血圧を測りながら、昨日の今頃は東京で最新のがん診療の話聞いていたんだなあと夢のような不思議な気持ちでした。とにかく一回目の日医会館はそんな風に全くの「お上りさん」状態でした。

2回目の日医会館出張は11月19日に開催された生涯教育担当理事連絡協議会でした。これは午後からの開催で、午前中2時間ほど診療をした後、小松空港から飛行機に飛び乗り羽田、駒込、日医会館へと今度はスムーズに移動するはずでした。ところが駒込駅では雨が激しく傘を持たない私は立ち往生してしまい、「弁当忘れても傘忘れるな」の北陸人としては失態でした。なんとか定刻には中会議室の指定の席に着き、事務局の方と短い挨拶を交わしながら会長の挨拶に耳を傾けました。その後専務理事、委員長による制度改正の説明の間、会場は静かに何かを待っているようでした。雰囲気がガラッと変わったのは、専務理事が「それでは会場の皆さん、ご質問があればどうぞ」と会場にマイクを向けた途端です。集まった各都道府県の担当者はここぞとばかりに総合医の問題からカリキュラムの内容、認定の方法、登録システムなどについて矢継ぎ早な意見というより厳しい批判が怒涛のように噴出しました。挙句は執行部批判ともとれるような意見も飛び出し、対応した専務理事や副会長はたじたじで、ともかく「お願いしたい」「お願いします」で時間切れとともに押し切って閉会しました。まるでどこかの政党の党大会みたいな雰囲気でした。

二度の出張で日本医師会の二面性を見たようで、「自らの専門性を維持・向上することと専門職としての待遇や利益を保持・改善するための組織」という職能団体(Wikipediaより)だと改めて認識させられました。

私の担当する学術委員会は会員の専門性を維持・向上する目的のために頑張りますので今後ともご指導・ご支援をよろしく願いいたします。